

キリスト教委員会のHP(<http://rakuno-ce.org>)にアクセスして事前に聖書や讃美歌の確認をしましょう。

きなさい。これこそ、人の子があなたがたに与える食べ物である。父である神が、人の子を認証されたからである。」

【奨励】「クリスマスを待ち望む——アドヴェントに寄せて」
教会暦では11月30日（日）からアドヴェント（待降節）に入りました。クリスマス待ち望みつつ備える4週の期間をアドヴェント（待降節）と呼びます。日本でも、寺や神社、モスクといった諸宗教の施設やそれらの宗教の熱心な信者を除くと、ほとんどの人たちがクリスマスをお祝いするのではないのでしょうか。サンタクロースの日だと思っている人もいるでしょうし、イエス・キリストの誕生日とは知らずにイエスのバースデーケーキを食べている人もいます。ハロウィーンのように、何だか分からないけどクリスマスの喧騒に興じたり、クリスマスセールための商用に転じたりもしていますが、キリスト教徒が1%にも満たない日本において、最も有名で盛大な祭りとしてクリスマスが祝われているのは驚くべきことです。
本日の聖書箇所は供食（ヨハネ6：1-15）と湖上歩行ヨハネ（6：16-21）のふたつの奇跡物語を振り返っています。湖上歩行の物語と同じよう、イエスは舟に乗っていないのですが、ここで問題になっているのは、イエスと活動を共にする出家の「弟子」ではなく、イエスの推し活をする在家の「信奉者」です。つまり、これらの信奉者たちはイエスを探し求めているのではなく、「しるしを見たからではなく、パンを食べて満腹したからだ」というイエスの言葉が示すように、魂や精神が失われて形骸化した人間の姿を象徴しているのです。アドヴェントに適切な諺とは言えないかもしれませんが、「仏作って魂入れず」と同様だということです。その意味では、聖書とキリスト教に基づく三愛主義を掲げる本学で過ごすアドヴェントにおいて、クリスマスの本当の意味を知って欲しいと願っています。

【聖歌隊と一緒に歌いましょう】
大学礼拝では学生・教職員の有志による聖歌隊が合唱をします。クリスマスの讃美の練習もしています。積極的なご参加をお待ちしています。

【次回の大学礼拝（アドヴェント第2週礼拝）】2025年12月9日（火）10時40分
聖書 ヨハネによる福音書 6章 28-33 節
奨励 「真のパンと真の命——アドヴェントを過ごす」小林昭博（宗教主任）

【前回の大学礼拝】2025年11月25日（火）
学生：24名 教職員ほか：7名 合計：31名

【大学礼拝週報】2025年度 第26号（後学期第11号）
2025年12月2日（火）午前10時40分
酪農学園大学 黒澤記念講堂

【アドヴェント（待降節）礼拝】 《礼拝順序》		
	司 式	小林昭博（宗教主任）
	奏 楽	佐藤理恵（野幌教会会員）
	讃美指導	相原晴伴（循環農学類教授）
前 奏	主を待ち望むアドヴェント（高浪晋一作曲）	
讃美歌	讃美歌 21	231 番（久しく待ちにし）
聖 書	ヨハネによる福音書 6章 22-27 節	
さんび	酪農学園大学聖歌隊	
奨 励	「クリスマス待ち望む——アドヴェントに寄せて」	
祈 り	小林昭博（宗教主任）	
讃美歌	讃美歌 21	241 番（来たりたまえわれらの主よ）
報 告		
後 奏	戸を上げよ（アーベル作曲）	

【本日の聖書】ヨハネによる福音書 6章 22-27 節
22 その翌日、湖の向こう岸に残っていた群衆は、そこには小舟が一そうしかなかったこと、また、イエスは弟子たちと一緒に舟に乗り込まれず、弟子たちだけが出かけたことに気づいた。23 ところが、ほかの小舟が数そうティベリアスから、主が感謝の祈りを唱えられた後に人々がパンを食べた場所へ近づいて来た。24 群衆は、イエスも弟子たちもそこにいないと知ると、自分たちもそれらの小舟に乗り、イエスを捜し求めてカファルナウムに来た。25 そして、湖の向こう岸でイエスを見つけると、「ラビ、いつ、ここにおいでになったのですか」と言った。26 イエスは答えて言われた。「はっきり言っておく。あなたがたがわたしを捜しているのは、しるしを見たからではなく、パンを食べて満腹したからだ。27 朽ちる食べ物のためではなく、いつまでもなくならないで、永遠の命に至る食べ物のために働